一人一人の税が大きな助けに

津幡町立津幡中学校３年　　北口　美羽

「税金って高い。」「何のためにあるの。」私は日常生活でよくこう思っていた。税には、私たちに身近な消費税の他にも、所得税、法人税など、約五十種類もあるそうだ。物を買ったとき、収入を得たとき、家や車を所有しているとき、様々な場合でたくさんの税金を払わなければならない。だから、税金に対してよい印象は持てなかった。しかし、ある出来事を通して私の考えはがらりと変わった。

それは、今年の夏、私の住む地域が豪雨による災害に遭ったからだ。水害によって、車は壊れ、畳は流され、家の中のドアは閉まらなくなってしまったし、たくさんのものを捨てることになった。とても心配だった。

「これから大丈夫なのかな。」「これからどうしよう。」そんな思いばかりが頭の中にあった。そんな中、母が役場から、一枚の書類を持ってかえってきた。書類には「罹災証明書」と大きく書かれていた。罹災証明書？被災者生活再建支援金？人生で初めて聞いた言葉だった。そこで、私は詳しく調べてみた。罹災証明書とは、自然災害にあったとき、申請に基づいて、被害の程度を判定し、証明するものだ。つまり、罹災証明書があることで、勤務先の助成金や支援金がもらえるのだ。また、被災者生活再建支援金とは、被災者生活再建支援法に基づいて各都道府県が出した基金のことだ。災害に備えて各都道府県は同じ口座に積立金を振り込んでいる。災害が起こったときにはこの口座から支援金支給されるそうだ。この積立金の中には税金も含まれているということに驚いた。こんなところにも税金があるのだと思った。しかし、今回は「何のためにあるの」なんて思わなかった。この税金が私たちを助けてくれた。これは「全国民がお互いに困ったときはみんなで助け合おう！」というシステムだ。全員が少しずつ払っている税金が大きな力となって人々を助けているのだと分かった。家の被害の程度によって貰える金額は変わってくる。私の家もこの被災者生活再建支援金によって少なからず支援されることを知って、とても安心したし、家族もほっとしていた。

今まで、税金は自分たちが払うものだという考えで、どこに使われているか、どのように使われているかという視点からはほとんど考えたことがなかった。しかし、今回の災害を通して、税金の重要さを実感することができた。水害にあったときは、とても不安で怖かった。しかし、のちに税金が私たちの助けになった。この使われ方は一例にすぎない。私が知らない税金の世界はまだまだ広いのだと思う。今、中学生の私が物を買うときに払っているお金も困っている人の助けの一端を担っているのかもしれない。これからは税金の意義を考えて、自分の意志で責任を持って、納税できる大人になりたい。